

県想定南関東地震による津波がくるまで **ケース4**

**地震発生**

- まず身を守りましょう。
- 可能ならばコンロの火を消しましょう。
- 津波の前には大きな揺れがきます。
- 余震にも注意しましょう。

**1~10分**

- 海岸沿い・河川沿いから離れましょう。
- 高い場所へ避難しましょう。

**10~15分**

- 大きな津波が来襲(第1波到達)

**15~20分**

**強い引き潮**

- 大きな津波が来襲(第2波到達)  
⇒沿岸部が広く浸水する可能性があります。

**20~30分**

- 津波は繰り返し来襲します。
- 津波は第1波が一番高いとは限りません。
- この後も、大きな津波が来襲する可能性があります。
- 津波警報等が解除されるまでは**海岸に近づかないで**ください。

**30分~**

※時間軸は、鎌倉市で実際にあった津波から想定しましたが、地震の規模や発生位置などによっては、予測よりも大きな津波が襲い、そのために浸水範囲が拡大する可能性もあります。

津波の想定

本ハザードマップでは、神奈川県による新たな浸水予測図(平成24年3月公表)をもとにした「県想定明応型地震」「県想定慶長型地震」「県想定南関東地震」、及び、国(中央防災会議)が想定した「南海トラフ巨大地震」の**4ケース**を想定しています。

発生頻度はきわめて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす**最大クラスの津波**

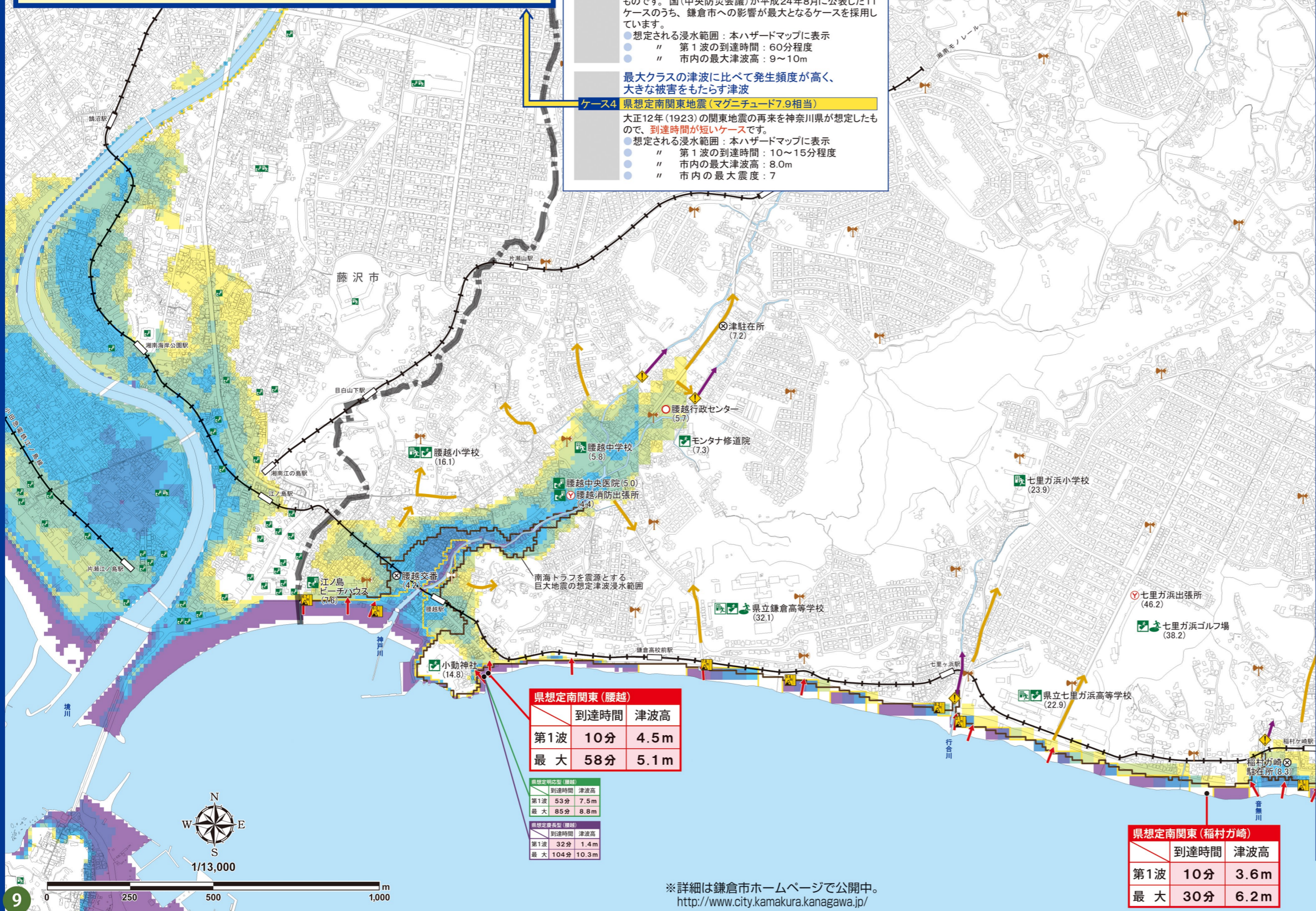
**ケース1 県想定明応型地震(マグニチュード8.4相当)**  
 神奈川県内の津波浸水想定のうち、**鎌倉市内の浸水範囲が最大となるケース**です。明応年間(1492-1501)に発生したとされる地震をもとに、県が想定したものです。  
 ●予測される浸水範囲と浸水深: 本ハザードマップに表示  
 ●第1波の到達時間: 50~60分程度  
 ●市内の最大津波高: 12.9m

**ケース2 県想定慶長型地震(マグニチュード8.5相当)**  
 神奈川県内の津波浸水想定のうち、**鎌倉市内の津波高が最大となるケース**です。慶長9年(1605)頃に発生したとされる地震をもとに、県が想定したものです。  
 ●予測される第1波の到達時間: 40分程度  
 ●市内の最大津波高: 14.5m

**ケース3 南海トラフを震源とする巨大地震(マグニチュード9.1相当)**  
 近い将来に大きな地震の発生が懸念される南海トラフで**東日本大震災クラスの巨大地震・津波が発生した場合を想定**したものです。国(中央防災会議)が平成24年8月に公表した11ケースのうち、鎌倉市への影響が最大となるケースを採用しています。  
 ●想定される浸水範囲: 本ハザードマップに表示  
 ●第1波の到達時間: 60分程度  
 ●市内の最大津波高: 9~10m

**最大クラスの津波に比べて発生頻度が高く、大きな被害をもたらす津波**

**ケース4 県想定南関東地震(マグニチュード7.9相当)**  
 大正12年(1923)の関東地震の再来を神奈川県が想定したもので、**到達時間が短いケース**です。  
 ●想定される浸水範囲: 本ハザードマップに表示  
 ●第1波の到達時間: 10~15分程度  
 ●市内の最大津波高: 8.0m  
 ●市内の最大震度: 7



**県想定南関東(腰越)**

	到達時間	津波高
第1波	10分	4.5m
最大	58分	5.1m

県想定明応型(鎌倉)

	到達時間	津波高
第1波	53分	7.5m
最大	85分	8.8m

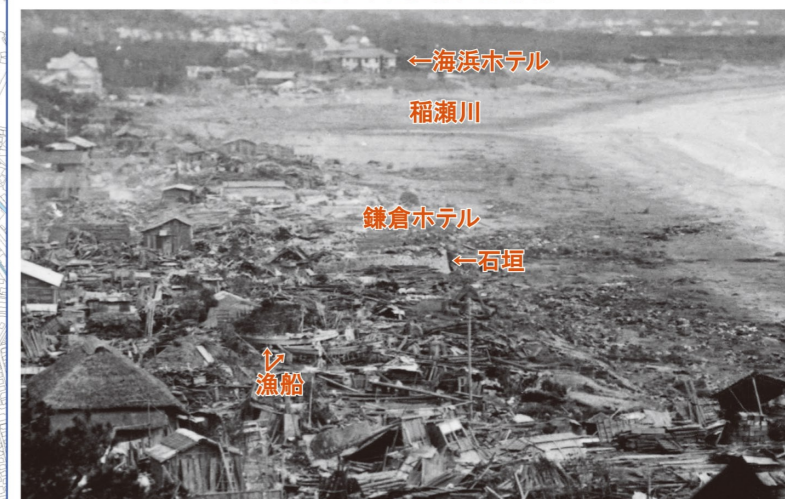
県想定慶長型(鎌倉)

	到達時間	津波高
第1波	32分	1.4m
最大	104分	10.3m

**県想定南関東(稲村ガ崎)**

	到達時間	津波高
第1波	10分	3.6m
最大	30分	6.2m

大正12年(1923)地震の由比ガ浜津波の跡  
(鎌倉市中央図書館所蔵)



成就院からの眺め。由比ガ浜で第2波(推定6~7m)が約**20分**で到達したという。沿岸の建物は石垣の上にあったものも、ほぼ完全に流失した。画面手前では、漁船が壊れた家屋の上に乗らされたさまが窺える。  
 昭和5年刊『鎌倉震災誌』より抜粋

大正12年(1923)地震の由比ガ浜津波の跡(絵葉書)



行合川河口付近のスロープ

※詳細は鎌倉市ホームページで公開中。  
<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/>